

NEWSLETTER



看護と理学・工学、産業の融合、超領域連携で築く未来へのイノベーション。

今号のトピックス

Topics

FEATURE

新理事の所信と委員会活動の紹介

REPORT

次世代委員会 第8回ものづくり体験ワークショップ報告

FEATURE

第14回看護理工学会学術集会メッセージ

INFO

学会からのお知らせ・賛助会員

新理事の所信と委員会活動の紹介

正宗 賢 先生（東京女子医科大学先端生命医科学研究所 教授）

本年度より、看護理工学会の理事を再び拝命いたしました。

倫理委員会および編集委員会の活動を通じて、看護と理工学が連携する本分野のさらなる発展に、微力ながら尽力してまいります。

看護の現場では、記録、情報共有、業務支援など、さまざまな領域でDXが進められています。私自身、医学部の中の工学者として医工融合研究に携わる中で、看護に関わる研究、看護職の皆様と協働する機会が増えてきました。そこで強く感じるのは、看護学と理工学の双方の視点から課題を捉えることの重要性です。技術が先行し、看護実践や患者さんの思いに対する理解が欠ければ、真に役立つ仕組みを生み出すことはできません。一方で、現場の課題を技術へと結び付ける理工学的視点も不可欠です。近年では、バイオデザインに代表されるように、現場のニーズを起点とし、事業性や社会実装を見据えた研究開発も重視されています。総じて、その根幹にあるべきものは、既存の枠組みにとらわれず新たな価値を生み出す姿勢だと考えています。

特に私は、本学看護学部の先生方と共に、VR看護教育や、観察、判断、気配りなど、記録や数値には表れにくい「見えない看護」に注目しています。今後は定型的な業務がロボットへ移行するだけでなく、フィジカルAIの発展により、患者さんの身体に直接関わる支援にも技術活用が広がるでしょう。だからこそ、看護の本質を見失わず、人と技術の望ましい関係を考える本学会の役割は、ますます重要になると考えています。



CEATEC2024展示ブースにて
医工融合の取り組みを紹介

新理事の所信と委員会活動の紹介

玉井 奈緒 先生（横浜市立大学 大学院医学研究科 教授）

「新理事としての思いと法人化への取り組み」

このたび、看護理工学会の理事として2期目を務める機会をいただき、身の引き締まる思いです。前期に続き、本学会の発展に微力ながら貢献できるよう、理事としての責務を誠実に果たしてまいります。看護と理工学の融合領域では新たな価値創出が求められており、学会として果たすべき役割はますます大きくなっています。理事として、会員の皆さまとともに学術的基盤を強化し、次世代の研究者・実践者の育成に尽力いたします。

併せて、法人化アドホック委員会の委員長として、2027年4月の法人化に向けた準備を鋭意進めております。法人化は学会運営の安定化と社会的信頼性の向上に不可欠ですが、私自身、法人化に関わった経験がないため、司法書士や税理士の先生方、理事長・委員の皆様と相談を重ねながら、試行錯誤の連続で進めている状況です。その過程でご迷惑をおかけする場面もあるかと存じますが、学会の未来に向けた重要なプロセスとして、丁寧に取り組んでまいります。

法人化に際しては、他の委員会の先生方にもご協力をお願いする場面が増えると思います。どうか温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



次世代委員会 第8回ものづくり体験ワークショップ開催報告

姫野 雄太 先生（植草学園大学 健康情報看護学 准教授）

テーマ：下痢に対するベッド上での排便ケア

2026年6月27日(土)・28日(日)の2日間にわたり、第8回ものづくり体験ワークショップを開催しました。今回のワークショップでは、学会理事である仲上先生にご協力いただき、東京大学を会場として開催いたしました。当日は2つの台風の接近により開催が危ぶまれましたが、急遽ハイブリッド形式に変更し、看護系14名、工学系6名、企業3名の計23名にご参加いただきました。「ものづくり体験ワークショップ」では、企画からプロトタイプ作成までのものづくりの一連のプロセスを体験するとともに、異分野のものの見方や考え方を学びます。このワークショップでは、看護系・工学系・企業など多様な背景を持つ参加者が協働してグループワークに取り組むことが特徴です。今回のテーマは「下痢に対するベッド上での排便ケア」でした。

まず、日々の看護実践について紹介いただき、その後、グループごとに現場の課題を整理し、「誰の、どのような困りごとを、どのような方法で解決するのか」を明確にし、具体的なアイデアへと発展させました。2日目には、アイデアを形にするためのプロトタイプを製作し、成果発表会でその成果を披露しました。試作品の完成度を高めるために、看護の視点からは実用性や安全性、工学の視点からは構造や機能性について活発な意見交換が行われ、専門分野の垣根を越えた協働によるものづくりの醍醐味を実感できる時間となりました。

さらに、懇親会や昼食時の雑談の中で、それぞれの業界の現状や課題を知り、相互理解を深めることができました。参加者からは、「普段交流する機会の少ない他大学や他分野の方々との議論が刺激になった」「現場の課題を具体的な形にしていくプロセスが非常に興味深かった」といった感想が寄せられました。今後も本ワークショップを通じて、看護と工学の融合による新たな価値創出を目指し、参加者の皆様とともに学び、挑戦する場を提供してまいります。



ワークショップの様子



全体写真

【看護理工学会次世代委員会 委員】

吉田 美香子、桑名 健太、楠田 佳緒、雨宮 歩、金澤 悠喜、長江 祐吾、北村 言、武石 陽子、三原 陽一郎、吉本 佳世、因 直也、篠崎 真良、武井 裕輔、姫野 雄太

第14回看護理工学会学術集会 開催に向けて

大会長 赤瀬 智子 先生（横浜市立大学 大学院医学研究科・医学部 教授）

テーマ: 究(きわむ)そして看護理工学から本質的なケアを創る

第14回看護理工学会学術集会の開催がいよいよ来月10月24日・25日となりました。

「究(きわむ)そして看護理工学から本質的なケアを創る」というテーマのもとに、異なる分野や若手からベテランの皆さまの多様な視野・考え方とともに、本質的なケアについて考える機会としたいと思っています。

今回の学術集会は横浜市立大学医学部が横浜市立大学附属病院・横浜市・横浜薬科大学と協働し、学問を追究してきた究人(きわみびと)の特別講演や教育講演、ハンズオンセミナーやモバイルファーマシーなどの体験や見学もご用意いたしました。また、未来を担う高校生や大学生が分野を超えて、様々な発想からチームで考えていただく楽しい学生交流企画も実施します。テーマは「人々が心地よく医療を受けるためにできることは何か？」です。また、今回のポスター発表は、食事しながら飲みながら、楽しくディスカッションできる場となるよう懇親会合同形式と致しました。

横浜での開催を楽しめる企画をしておりますので、是非お越しくださいのを楽しみにしております。



横浜市立大学 福浦キャンパス

第14回
看護理工学会学術集会
The 14th Annual Meeting of Nursing Science and Engineering

2026.10.24 SAT ▶ 25 SUN

横浜市立大学 福浦キャンパス
横浜市金沢区





The Society for Nursing Science and Engineering 看護理工学会に 入りませんか？



看護と理工学の連携を強力に支援します！

学会からのお知らせ

会員の皆様へ身近に、臨床看護ケアに関心をお持ちの工学系の方や、テクノロジーに詳しい研究者との交流を希望する看護系の方がいらっしゃいましたら、ぜひ本学会をご紹介します。

学会誌最新号

看護理工学会の最新論文は、J-STAGEおよび学会HPで公開されています。是非ご覧ください。



看護理工学会誌

Journal of Nursing Science and Engineering

[J-STAGE / 学会誌ページ](#)

ニュースレター発行

広報委員会

委員長：浅野 美礼 (信州大学)
委員：大貝 和裕 (石川県立看護大学)
内藤 紀代子 (びわこ学院大学)
鈴木 雅登 (兵庫県立大学)
高橋 聡明 (横浜市立大学)
青木 真希子 (筑波大学)
寺澤 瑛利子 (大阪大学)

賛助会員

五十音順

[アルケア株式会社](#)
[グローバルマイクロニクス株式会社](#)
[株式会社ケアコム](#)
[ケアライフ有限会社](#)
[株式会社ケーブ](#)
[サラヤ株式会社](#)
[株式会社春恒社](#)
[株式会社照林社](#)
[大王製紙株式会社](#)

[ホーム&パーソナルケア](#)
[国内事業部マーケティング本部](#)
[ディピュラメディカル](#)
[ソリューションズ株式会社](#)
[テルモ株式会社ホスピタルカンパニー](#)
[収益改善室管理](#)
[ニチバン株式会社](#)
[ニプロ株式会社](#)
[パラマウントベッド株式会社](#)

[富士フイルムメディカル株式会社](#)
[超音波事業部](#)
[株式会社ベーテルプラス](#)
[メンリッケヘルスケア株式会社](#)
[ウンドケア事業部](#)
[株式会社モルテン](#)
[ユリケア株式会社](#)